

平成30年度 授業改善推進プラン 調布市立(第二小) 学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】
・ 日常の授業の充実を図るため、学級経営を盤石なものとし、私語を排除した聞く力を付け、考えの交流を活発にし、児童中心の学び合う学習過程を大事にした授業改善に取り組む。(二小スタンダードを徹底する)
・ 学力調査の分析に基づいた授業改善推進プランとPDCAサイクルを活用した授業評価を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
・ 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、主体的・対話的で深い学びを計画的に展開する。
・ 算数習熟度別指導加配教員を活用し、筋道を立てて考え、学んだことを学習や生活に生かす指導方法の工夫・改善を図る。
・ ユニバーサルデザインの考え方に基づく授業改善への取り組みを通して、教員の指導力向上を図る。

【平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に関する調査結果分析内容】

・ 4教科において、関心・意欲は概ね高い。算数以外は、わずかに都の平均を下回っている。
・ 国語は、全体としては都の正答率を上回っているものの「文と文のつながり方に気を付けて、文を付け足して、文章を組み立てることができるかをみる問題」については正答率が5割を切っていて、課題と考えられる。また、「文の中のくわしくする言葉とその言葉がどの言葉をくわしくしているかについて着目して読むことができるかをみる問題」も正答率が4割を下回っていた。言語についての知識・理解・技能に関する問題7問中5問が正答率7割を下回っていることから、基礎的・基本的な内容を繰り返し取り組むことで確かな学力の定着を図っていく。
・ 社会は、全体としては都の正答率を上回っているものの、「比較・関連付けて読み取る力」や「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」課題が見られた。資料から読み取った事実を基に、自分の考えをまとめ、表現する活動を各単元の学習の中に位置付けて取り組んでいく。
・ 算数は全体としては都の正答率を上回っているが、数学的な考え方に問題に課題が見られた。また、「比較・関連付けて読み取る力」「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」にも課題が見られた。表を活用して式を組み立てることや、式で使われている数のもつ意味について読み取る指導の充実を図っていく。少人数での習熟度別指導を充実させ、個人差に応じた指導体制や学習活動の工夫を図る。
・ 理科は、全体としては都の正答率を上回っているが、観察・実験の技能や科学的な思考・表現についての課題が感じられる。今後は、観察や実験を通して、自然事象に触れる機会や体験的な活動をより一層取り入れるなどして、知識・理解の確かな定着を目指す。

【授業改善の方針・目標】

・60分授業を行い、授業時数を確保するとともに、効果的に進められるよう計画案を作成する。
・文を正しく読み取る力を高めるための指導を国語科を中心に高め、全ての教科で内容の理解が深まるように授業改善を図る。
・伝え合うを核に、思考力や表現力を伸ばすと共に、主体的・対話的で深い学びを実現する授業作りを行う。
・「二小スタンダード」を基に、校内で統一し、授業に臨む基本的な姿勢や学習のルールの定着を図る。

【授業改善のための具体的な取組】

【1年】(国語) 平仮名の50音の習熟に努めるとともに、リズム打ちなど読む際の支援を工夫する。(算数) 10までの数の合成、分解をゲーム形式で行わせることで、楽しみながら主体的に練習を行うことで定着を図る。(生活) 観察する前にどこに着目するかポイントを絞って意識させたり、記録をする前に友達と発見したことを意見交換したりすることで、自然事象の不思議さに気付かせる。
【2年】(国語) 読書の時間を確保し、様々な言葉に親しみ理解できる語彙を増やす。言葉集めや短文作りの時間を確保する。(算数) 文章問題でポイントに下線を引いたり、問題の場面を絵や図に表したりして解くよう指導する。(生活) 自然に親しませ、育てている生き物や植物に合った世話の仕方があることに気付かせる。
【3年】(国語) 下書きと推敲後の文章を比べさせることを大切にする。(社会) 比較・関連付けをさせることに重点を置いた学習活動を取り入れる。(算数) 数直線などで表す経験を増やし、図と関連付けて考えさせる。面積では、具体的な広さを提示して量感を育てるようにする。(理科) 体験的な活動を多く取り入れて「知りたい・確かめてみたい」という主体的な学びにつなげる。比較しながら調べて見出した問題を追究する活動ができるようワークシートや資料を工夫する。
【4年】(国語) 話し合い活動の場面では、自分の意見を先に書いてから話し合いを始めるなど、自分の考えをもって参加するように指導する。(社会) できるだけ体験学習・見学学習を重視し、知識理解と実生活を結び付ける授業になるように努める。(算数) 自分の考えや友達の考えを書き留め、一つの課題について多様な考え方ができるようにする。(理科) 実験の結果から得られる考察を文章化する活動を重視する。
【5年】(国語) 前後の文の関係や段落同士のつながり、接続詞や指示語などに着目し、文章を正しく読み取れるようにする。(社会) 板書や学習カードを工夫し、分類・比較・統合などの思考を児童が行いやすいようにする。(算数) きちんと問題を読み、キーワードや関係を理解し解答する指導をする。繰り返し問題に取り組むことで、演算決定を確実にできるようにする。(理科) どの単元でも予想―観察実験―考察という段階を繰り返すことで、学習の見通しがもてるようにする。
【6年】(国語) 言葉に着目させたり、対話等の活動を授業に取り入れたりと、登場人物の心情や情景描写を児童が読み深めていけるようにする。辞典の活用を促し、語彙力を高める。(社会) 調べ学習を設定し、歴史的な事象について考える力や調べたこと、考えたことを表現する力を高めていけるようにする。(算数) じっくり問題を読み、数直線を使って立式し、解答するように指導する。繰り返し問題に取り組む時間を確保する。(理科) 課題を正しく理解し、仮説を立てた上で観察や実験を行うことで、事象と結論を整理して考えるように指導する。
【音楽】 ペアやグループで思いに合った表現ができているか聴き合ったり歌い合ったりする。
【図工】 少人数グループでコミュニケーションを取りながら、絵・工作・造形あそび・鑑賞に表す題材を工夫する。
【家庭】 教材を複数用意したり多様な学習方法を取り入れたりと、個々に対応する。さらに、身近な材料を使って生活に生かせる物を作らせる。
【体育】 技能について系統化し、段階的に基本技能を習得させる時間を設けるようにする。コオディネーショントレーニングを取り入れる。

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

・学年ごとの検証メモを作り、目標に対する検証を行い、次の目標を立てる。